

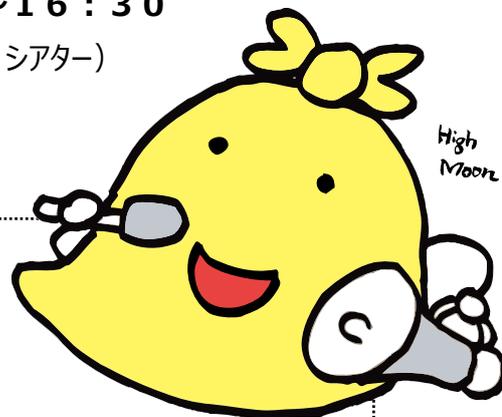
ごみ減量モデル事業 成果報告・交流会

開催日時 令和4年2月22日(金) 13:30~16:30

開催場所 オンライン(事務局:京エコロジーセンター 1階 シアター)

プログラム

- (1) オープニング
- (2) 審査委員等紹介
- (3) スケジュール等説明



先進的モデル事業助成 1団体 発表 9分 質疑応答3分 入替1分

地域活動事業助成 1団体 発表 7分 質疑応答3分 入替1分

- (4) 成果報告

【先進的モデル事業助成】

- ① 株式会社 応用芸術研究所
- ② おむつなし育児研究所京都サロン

【地域活動助成】

- ③ NPO 法人コンシューマーズ京都
- ④ SKY オールボランいろどり(彩)
- ⑤ 生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ もり部

【休憩】 約10分

- ⑥ 一般社団法人ふろしき研究会
- ⑦ 桃山エコ推進委員会
- ⑧ NPO 法人地域共生開発機構ともつく
- ⑨ Ladies' Eco Circle プラムロード
- ⑩ 認定NPO 法人セカンドハーベスト京都

- (5) 全体質疑 約10分
- (6) 各団体からひとこと (各 1分程度)
- (7) 各審査委員からの講評 (各 2分程度)
- (8) 終了



地域・多世代連携で家庭内ストック問題を削減する

リユースモデルの DX 化

株式会社応用芸術研究所

令和3年度 助成金額 400,000円

主な実施場所 京都市西京区／右京区

事業目的・概要—（家庭内ストック品をリユースに導く、デジタルコンテンツの拡充と活用）

地域・多世代連携でリユース活動を推進するモデルとして、SNS アプリの「LINE」を活用したスマートでストックレスなリユースを実現する実験プログラム（リユースドライブ）は、一般市場に流通している不特定多数を対象とした「大きなプラットフォーム（フリマアプリ）」と違い、顔が見えるコミュニティーを対象とした「小さなプラットフォーム（SNS 仲間）」でのリユースを充実させる目的で、開発を進めてきた。このプログラムは、毎年改善をしながらも実践者からは、一定評価を得ており、効果についても明確になっている。しかし、新規参入にあたりハードルが高く、スマホという新しいコミュニケーションツールを使うこともさることながら、受け皿となる地域コミュニティーの理解が得られるか否かが大きな鍵であり、障壁となっていた。そこで、本事業は、このプログラムを地域で導入して頂く「入口のデザイン」として、これまで、地域役員会等での対面による説明会でしか、プログラム説明の機会がなかったことを鑑みて、「コロナ禍」で大きく進展したデジタルコンテンツを活用し、事業全体の「DX化」を図ることを目的とした。

取組内容—（京都市内複数地域で、リユースドライブの啓発や普及活動の実施を目指す。）

1) 地域団体（地域ごみ減等）への事業説明会の開催。

7月から事業開始。コロナ第4波が収束していたが、8月から5波に突入。デジタルコンテンツを収録する機会自体が延期となったが、5波の収束後に、説明会を開催。

2) 地域団体と大学生との連携プラットフォームづくり。

今年度は、松陽学区の近傍に位置する「京都経済短期大学」の小島理沙教授と連携実施。

3) スマホを使ったSNS講習会の開催。

本事業の要である「スマホを使ったSNSの活用」を目指し、スマホでのSNS講習会を実施。

4) 「リユースドライブ」の運用。

スマホ講習を終えた地域団体から順次、学生等からの欲しい物リストを提示。家庭内ストック品の写真情報を共有するSNSグループを作成。

5) 引き渡し会

住民と学生の個人間での引き渡しは、コロナ感染予防の観点から現定的に実施。

成果一（徒歩圏でつなぐリユースのカタチが実現）

1) 京都経済短期大学との連携

本年度は、松陽学区と京都経済短期大学のリユースドライブが成立。これまで提唱してきた「徒歩圏で繋ぐ」コミュニティー形成が、一歩前進。12月末に1回目のリユースドライブを実施した。

2) リユースドライブ導入説明動画の制作

はじめに編／活動概要編／スマホ操作編／活動実施編(学生連携事例)

12月末に実施された、松陽学区と京都経済短期大学の学生との「リユースドライブ」により、学生と地域住民の方々が、リユースドライブを通して「どのような感じで接しているか」といった風景を動画で撮影でき、説明動画を編集・制作できた。

3) 西京区: 松陽学区

3月末に、第2回目のリユースドライブを予定。

4) 右京区: 京北山国地区

3月末に、リユースドライブを実施する予定。当該地では、里山圏での特徴を活かした「移住者等」との連携事例を、リユースドライブ実施と共に、導入説明動画の収録を行う予定。

(団体名) 株式会社応用芸術研究所

【代表者】 代表取締役 片木孝治

【主な活動地域】 京都府：京都市/与謝野町/南丹市
福井県：鯖江市/坂井市/小浜市

【ウェブサイト】

【設立の目的】

様々な社会問題や地域問題などを、デザイン（芸術を応用したもの＝応用芸術）の力で、課題解決する事を目指す。一般的に「デザイン」という言葉が用いられている対象は、グラフィックやプロダクト、建築等に向けられる「モノ」であるが、コトにおけるデザインを実践・研究することに主眼をおく。

【主な活動内容】

- ・ 京都 X キャンプ 与謝野（京都府与謝郡与謝野町岩滝地区）
- ・ 地域商店街活性化事業：樹形商店街ブランド化事業
- ・ 京都府：次世代下宿「京都ソリデール」事業
- ・ 京都市上京区：地域をつなぐ「スマホ活用」ふれあい事業

おうちでできるエコライフ！おむつで暮らしを豊かにしよう

おむつなし育児研究所京都サロン

2021年度 助成金額 450,000円 主な実施場所 京都市全域

事業目的・概要—おむつを通じて、子育て家庭の暮らしを変える

おむつなし育児（※）や布おむつのリユースを通して子育て家庭が環境問題に興味を持ち、紙おむつごみを始めとした家庭ごみを削減することを目的として実施することをベースに、コロナで深刻化している子育て家庭の貧困化、孤立に悩む方に赤ちゃんの排泄に関して少しでも有効な情報・手段が届くように発信、機会提供をした。事業実施により、紙おむつの購入額やごみ量が減ること、コロナ禍で子どもとふれ合う時間が長くなったことをプラスに捉え、赤ちゃんの排泄に寄り添うことで、育児の質を高める機会のひとつにしてもらうこと、貧困化、孤立化などの問題に対しても解決の糸口となることを目的として実施した。

（※）おむつなし育児とは、おむつに頼りすぎず、こどもの欲求に寄り添ってなるべくおむつの外で排泄させる育児法を言う。

取組内容—「おむつで暮らしをかえてみ隊」によるグッズレンタルと連続講座

8月上旬にキックオフイベントとして、おむつなしサロン（茶話会）を開催。おむつなし育児に関心のある親子4組の参加があった。

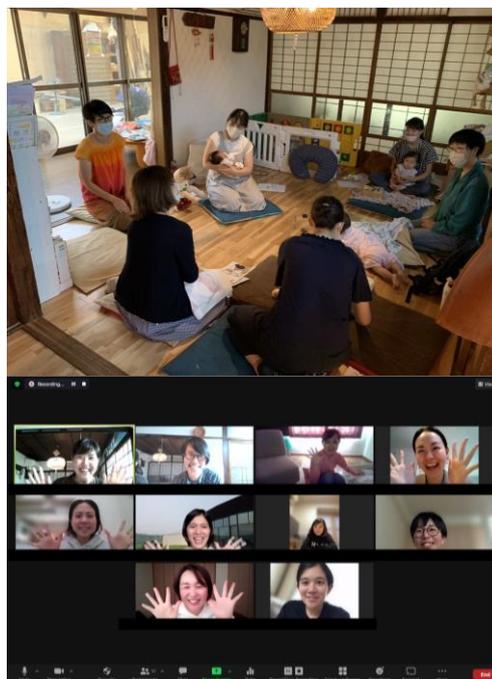
並行して「おむつで暮らしをかえてみ隊」という名称で、布おむつ&おむつなし育児に関心のある親子モニターを募集し、対象者にはすぐに布おむつやおむつなし育児をスタートできるグッズの貸し出しと3回連続講座を実施。

講座については当初2グループに分け少人数での対面実施を予定にしていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、オンライン講座に変更することとなり、当初予定していた6組に加え、遠方（東京都、広島県）に居住する2組も参加し、計8組での事業を実施した。（※）

また、講座の他にLINEグループやYouTubeを用いてのフォローアップも実施。

感染状況が落ち着いた2021年11月と2022年1月には対面での交流会を開催し、母親たちが実際に会って交流を深める機会を設けた。

（※）遠方に居住する2組については、グッズのレンタルは実施せず、講座のみの参加とした。



成果—排泄を見直すことで、生活が変わった

●ごみの量や環境への意識の変化

おむつなし育児を実践することによる紙おむつごみの削減効果はもちろんのこと、関連する家庭ごみについても削減できたとの声が多く聞かれた。(例：キッチンペーパーをほとんど使わなくなった、おしり拭きのかわりに古着を切って使うようになった、等)「育児をしているから仕方ない」から「こんなに使う必要はないかも」という意識の変化が見られた。



●母親の意識の変化

参加した母親から、「今まで子どものことをよく分からないと思っていたが、排泄に寄り添うことで近づく方法が分かった」という声が挙がるなど、子どもとの時間が楽しくなった、より良いものになったという意見が多く聞かれた。

また、同じ育児法を実践している母親同士のつながりができたことで、情報交換や交流が生まれ、子育て不安の解消につながったとの声も挙がっていた。

●家族の意識の変化

「パートナーや兄弟、祖父母も一緒に取り組んだ」という家族もあり、中には「夫のほうが上手くおまるのタイミングを分かっている」という家庭もあり、「子どものことを家庭でより共有できるようになった」との声が寄せられた。

●介護とおむつなし育児の関連性

高齢の家族がいる参加者から「将来の介護に役立つ経験になっている」という声が寄せられたほか、出産前介護職に就いていた参加者からは、「高齢者と乳幼児の排泄は別のもと思っていたが、同じだったんだと気づくことができた」という声が寄せられた。

●保育者に与えた影響

保育園を利用している参加者から、「園の先生から娘の排泄について質問があり、おむつなし育児について伝えたところ園でも実践したいと言ってもらった。その後園でもおまるで排泄をすることができている。」という声が寄せられた。

(団体名)おむつなし育児研究所京都サロン

【代表者】 代表 西山 由紀 【主な活動地域】 京都市全域

【ウェブサイト】 <http://omutsunashi-kyoto.com/>

【設立の目的】古くから伝わる「3R」布おむつを使い、赤ちゃんから始める環境への取り組みとして活動。紙おむつのごみの減量にも取り組むと同時に環境に優しい布おむつ、日本古来のやり手水（おむつなし育児）の普及も計る。また、母親の育児不安を解消し、地域における母親同士の交流の場をつくることも目的のひとつとしている。

【主な活動内容】

- 環境教育プログラム開発。赤ちゃんのおむつを契機としたごみの発生抑制や循環型社会の提案や、ブース出展等による啓蒙的活動。* 当会は紙おむつを完全に批判するのではなく上手に活用することを提案する。
- 赤ちゃんのおむつの世話に関する子育てサロン・講座・講演会の実施、地域のつながりやコミュニティ作り。
- アートと子育て、くらし文化の伝承、きものリメイクおむつカバーやおむつなしグッズの開発・P R・ワークショップを実施。
- 食育とトイレ講座の開催。いのちの誕生に関する体験型ワークショップ。「早寝早起きうんちよし！」を推奨。0歳児の健やかな発達のために教育的観点からおむつなし育児を提案。

「今日からはじめる プラスチックごみを減らすくらし」制作と学習・啓発活動

特定非営利活動法人コンシューマーズ京都

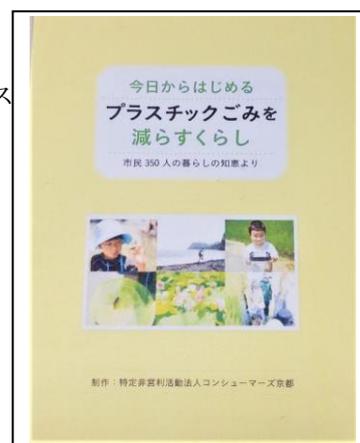
令和3年度 助成金額 345,000円 主な実施場所 京都市内

「今日からはじめる プラスチックごみを減らすくらし」(小冊子製作)

コンシューマーズ京都では2019年に容器包装プラスチック、2020年にレジ袋アンケート踏査をしました。そこに集まった市民350人のプラスチックごみを減らすための知恵を紹介する小冊子をつくりました。3月には制作報告会&学習会を開催してこの冊子を使った地域でのミニ学習会の呼びかけをおこない、市民の具体的なプラスチックごみの削減行動にむすびつけます。(A5判 P28 1200部)

内容はアンケート調査の報告と見えてきた課題や提案を掲載、疑問の多かった「どこまできれいにするの?」「みんなの気になる」を調べて掲載しました。「今日からはじめるプラ削減」では挿絵を入れて親しみやすく、誰でもが今日から取り組めるものにしました。

地域で開催するミニ学習会の進め方についても案内を入れます。



みんなでプラごみを考える写真展 (啓発事業)

10月17日(日) ゼスト御池御幸町広場で開催

コンシューマーズ京都に夏休みを利用して2名の大学生がインターンにきました。プラスチック問題にあまり関心の無い人にこの問題を考えるきっかけをつくるイベントを企画して欲しいとの課題に二人が取り組みました。

SNSで「みんなが写した水辺の写真」を広く募集、52点の応募がありました。ゼスト御池の広場に紙テープで川を作り写真を展示、大型スクリーンでも上映しました。

展示では小冊子の掲載内容に沿って展示を行い、ふろしき研究会にも出店をお願いしました。学生は京都市環境政策局へ聞き取り調査もおこないました。彼らの調べた京都市のゴミ袋の料金の使われ方などの展示を熱心に聞く市民の姿がありました。

容器包装プラ「どこまできれいにするの」展示には通りがかりの人が気軽に足を止めてプラスチック容器包装についてスタッフと対話する今までにない画期的な啓発事業となりました。



プラの代替素材への理解を深める（開発企業を招いた学習会の開催）

●バイオプラスチック学習会開催（オンライン開催 72名参加） 2021年8月19日

～バイオマスプラスチック&生分解性プラスチックって？～

株式会社カネカ Green Planet Global 推進部 福田 竜司氏

アンケートで疑問の声が多かったバイオプラスチックについて学習会をしました。生分解性プラスチックで実用化がはじまった、カネカ生分解性ポリマーPHBHの研究者を講師に招きました。オンラインで最先端の研究開発のお話がきけるとのことで、東京や名古屋などからも多様な参加者がありこの分野での期待の大きさを感じました。

植物性の油を微生物が食べてプラスチックの成分を作り出し、使用後にまた微生物が水とCO₂に分解するという生分解性プラスチックのお話に驚きました。まだまだ価格などの面での課題はあるものの、生ごみコンポストなどへの利用や農業用資材などへの期待の声が出されました。

申し込みの時に質問をとるなどして、多くの参加者の疑問に答えられるようにしました。

●容器包装は紙に代わるか 紙製素材の技術動向とその課題 2022年3月18日 開催予定

日本製紙株式会社 白板・包装用紙営業本部 シールドプラス事業推進室 内村 元一 氏

プラスチックの代替素材として期待の高まる「紙」について企業の担当者を招いてお話を聞きます。

①森林資源は大丈夫なのか？②プラスチックに代わる性能はどの程度期待できるのか？③リサイクルなどどうなるのか？などの疑問に答えてもらいます。

京エコロジーセンターの会場とオンラインの併用開催をします。どうぞ皆さまご参加ください。

小冊子「今日からはじめる プラスチックごみを減らすくらし」の普及を進める

●制作報告会をして小冊子の完成をマスコミなどにも取り上げてもらうよう働きかけをします。

●ゴミ減会員・コンシューマーズ京都会員へ学習会の進め方を書いた案内をつけて冊子を配布、地域や職場での学習会の呼びかけをします。コンシューマーズ京都は今後、この冊子の普及と地域での学習会をサポートして市民の削減行動を応援していきます。

(団体名)特定非営利活動法人 コンシューマーズ京都

【代表者】 理事長 鯉江 賢光 【主な活動地域】 京都府内全域

【ウェブサイト】 ホームページ : <https://consumers-kyoto.net/>

【設立の目的】

消費者問題・くらし・環境問題に関わる意識啓発・教育活動、情報提供、調査・研究ならびにそれに関わる提言とその実現をめざす活動をすすめることを通じて、消費者の権利の確立と消費者の保護及び環境の保全を図ることを目的とする

【主な活動内容】

- 消費者問題・くらし・環境問題に関わる意識啓発・教育活動
- 消費者問題・くらし・環境問題に関わる情報提供
- 消費者問題・くらし・環境問題に関わる調査・研究
- 消費者問題・くらし・環境問題に関わる提言とその実現をめざす活動
- 企業評価を通じて公正な市場、環境調和型社会を実現する活動
- 消費者団体訴訟制度を通じて消費者の権利の確立をめざす活動

(事業名)ボランティア活動を楽しみ、ごみ減量活動にも楽しく取り組みます。

(団体名)SKY オールボランいろいろ (彩)

2021 年度 助成金額 290,000 円 主な実施場所 京都市内全域

事業目的・概要—シニアのボランティア活動のパワーを結集して、ごみの減量をめざしました。

地域をいろいろ、持続可能な共生社会を目指して楽しくボランティア活動をしています。未来のために、ごみ減量問題に取り組み「誰一人残さない、持続可能で住み続けられるまちづくり」を目指しています。SKY オールボランいろいろ (彩) のシニアの活動パワーを活かして、ごみの減量に向けて自ら行動をし、私たちをとりまく人たちにもライフスタイルの見直しを広く呼びかけました。

取組内容—ボランティア活動と、ごみの減量に向けて広報啓発活動に取り組みました。

- ①ボランティア活動を実施する際に、ごみ減量の意識を強く持って行動しました。
- ②ごみの減量に向けて、広報活動やオールボランいろいろ (彩) 主催の啓発活動をおこないました。

成果—SKY オールボランいろいろ (彩) 会員の環境保全に対する意識が高まり、ごみの減量につながりました。広報・啓発活動にも取り組み、ごみの減量に貢献しました。

①ボランティア活動

㊦祇園祭ごみゼロ大作戦

開催日時：7月15日(水) 16時～19時 20人参加

御射山公園に集合して鉾町一帯の散乱ごみの拾い歩き活動を実施しました。

㊧まるごと美術館

開催日時：11月14日～12月5日 昼の部と夜の部あわせて74シフトでの参加

妙顕寺・妙覚寺で、受付や案内をしました。今年度実践できた数少ないボランティア活動です。お寺の境内や近隣にごみが落ちてないか意識して活動をしました。

いっぽう、以下の㊦㊧の2つの活動は、主催者の意向で残念ながら中止となりました。

㊦桂川クリーン大作戦：河川敷のプラスチックごみの減少が、SDGsの目的にもある“海のごみを減らして海洋汚染を押さえることにつながる”との意識のもと、15人参加して活動予定をしていました。

㊧地下鉄モニタリング：32人が参加してごみの種類をチェックしてごみの減量を目指していました。

今年度はコロナ感染症の影響を受け、例年実施されている京都を彩る行事が軒並み中止となり、私たちのボランティア活動も制限されたいへん残念に思っています。

②啓発活動

㊨さすてな京都見学と生ごみコンポストの勉強会

開催日時：11月18日(木) 37人参加

ごみ減事務局より中田会長、藤田様にお越しいただき、生ごみコンポストの講義の後、最新鋭のごみ処理施設の“さすてな京都”を見学しました。見学会の後、参加者は生ごみコンポストの材料になる醍醐寺のたい肥を持ち帰り、自宅で生ごみコンポストを実践しています。あわせて助成金で購入しましたSDGs バッジも参加者全員に手渡し、SDGs の概念を共有しごみ減や環境の意識を深めました。

④ごみ減量（環境）に関するアンケートの実施

今年度のいどりの重点活動であるごみの減量意識の調査を実施しました。

⑤環境講演会を実施予定

3月4日に環境講演会の実施を予定しています。

講師：京大名誉教授、京大産官学連携本部特任教授 加納健司氏 場所：ハートピア京都大会議室

演題：自然の中に生きることの愉しみー生物と元素の輪廻ー

自然の中で生きて喜びを感じる様々な事例をお話していただく予定です。

③広報活動

⑦びっくりエコ新聞を配布

配布先は会員や知人そして各所に配架しました。「ロスしま宣言」を実施して食ロスを低減しました。

⑧SKY 情報誌に環境情報を広報

隔月発行のSKY 情報誌に、下記の環境情報（記事）を掲載し、SKY 会員 3,000 人とSKY を取り巻く人々と情報を共有しました。

7月号 3月に実施しました“京都大学地球環境学の浅利美鈴准教授”の環境講演会

9月号 祇園祭ごみゼロ大作戦

11月号 京都市ごみ減量事業助成金で“SKY オールボランいどり（彩）Tシャツ”を作成

1月号 さすてな京都でSDGs の実践

⑨Tシャツ作成とSDGs バッジの購入

Tシャツ作成：SKYオールボランいどり・ごみ減量推進会議・SKYセンターのロゴをプリント
SDGs バッジを配布：「誰一人取り残さない」という概念を共有

（団体名）SKY オールボランいどり（彩）

【代表者】 会長 辻洋 【主な活動地域】 京都市内

【ウェブサイト】 （あればURLを記載）

【設立の目的】

シニア世代のわたしたちが何かお手伝いができることがあればと思い、京都SKYセンターのボランティアサークルとしてSKY オールボランいどり（彩）が誕生しました。さまざまなイベントでボランティア活動をおこない、若い世代との交流も楽しんでいます。将来の美しい京都に貢献できることを目指し、細やかなおもてなしの心でお手伝いすることに喜びを感じながら仲間とともに活動しています。人生100年時代となりました。生涯現役社会で元気な社会の一員として活躍し続けます。

【主な活動内容】

環境・観光・スポーツ・福祉・交通分野でさまざまなボランティア活動をおこなっています。参加は自由で、自分のスケジュールに合わせて興味があるものに参加しています。リーダーを中心に活動をおこないます。

- 環境分野：祇園祭ごみゼロ大作戦、桂川クリーン大作戦
- 啓発活動：環境講演会、勉強会
- 観光分野：京の七夕、時代祭、まるごと美術館
- 福祉分野：RUN 伴
- 交通分野：地下鉄モニタリング調査
- スポーツ分野 京都マラソン、京都サンガ応援、京都ハナリーズ応援、ワールドマスターズゲームズ

(追加資料)

ごみの減量(環境)に関するアンケート結果

- ①対象：SKY オールボランいろいろ (彩) の会員 70 人
- ②調査 (配布) 手段：郵送
- ③発送時期：2021 年 8 月初旬
- ④回収および期日：8 月 23 日提出期限として FAX または郵送で回収
- ⑤回収人数：52 人
- ⑥アンケートと同時に“びっくり!エコ新聞”と“生ごみコンポストの実施方法が記載されたカラーのチラシ”を送付
- ⑦結果

⑦5 つの質問 (質問の回答を、大きく肯定と否定の 2 項目に集約して集計)

項目	○	人	×	人	備考
エコ新聞を読みましたか?	読んだ	50	読んでない	2	読み込みの程度は考慮に入れていません
「ロスしま宣言」をしましたか?	宣言をした	12	宣言をしていない	40	「ロスしま宣言」は食ロス宣言です。エコ新聞に宣言をする欄があるので切り抜いて貼っておけば常に意識することができます。
外出時にマイボトルを持参していますか?	している	44	していない	8	外出先でペットボトルを購入せずにマイボトルを持参。
生ごみコンポストを実践していますか?	している	8	していない	44	配布した実践方法のチラシを読んで開始した人も含む
ボランティア意識が高まりましたか?	高まった	44	変わらない	8	ごみの減量問題を考えることによって、ボランティア意識は変化しましたか。

④ごみの削減目標の質問

今年度の環境活動への取り組みで、「ごみをどれくらい削減できそうですか?」と質問しました。

削減予想割合 (%)	20%以上	20~10	10~5	5~0%	変わらない
人数	1	6	17	3	25

半数以上の方が、今年の取り組みでごみを削減できると考えています。

削減割合は 10%~5%と考える人の割合が一番多く、20%以上削減できると考える人もいました。

④下記のようなコメントを記載している人が 1 名いました。

戦前生まれて、戦時中食糧難の時を過ごし、毎日食べるものがなく、ひもじい思いをしました。ですから食べ物を大切にする習慣が身についており、食べ残しは皆無です。

我が家の教訓は

「作られたご苦労を考えるとどんなものも無駄にしてはならない。もったいない、もったいない!」

アンケートの結果から

- ①送付しましたエコ新聞は、程度の差はあれ、皆さん一様に目を通しています。
- ②外出にマイボトルを持参している人は85%に達しています。マイボトル活動はかなり浸透しているようです。
- ③生ごみコンポストを実践している人は8人で、うち6人が今回初めて挑戦し始めたという人です。実施していない44人のうち、18人は生ごみをたい肥化する方法はすでに知っていたと回答しています。
(知っているが生ごみコンポストを実施しない主な理由)
子供がしている。マンションでやりづらい。

その後、11月18日にさすてな京都で見学会をおこない、その時に生ごみコンポストの講座をごみ減事務局の藤田さんにレクチャーしていただきました。その時に、醍醐寺の落ち葉たい肥を参加者に持ち帰ってもらいました。その後、参加したどれほどの皆さんが継続して実施しているかが気になるところです。

【企画マーク】H9cm×W9cm
【マークカラー】フルカラーマーク



【企画プリントサイズ】H7cm×W28cm
【マークカラー】実色

京都SKY オールポリイロどり(彩)

京都SKY
オールポリイロどり(彩)
京都府ごみ減量推進会議



■300ACTドライTシャツ ライトグリーン



■300ACTドライTシャツ 蛍光オレンジ

いりどり Tシャツ



SDG's バッジ



ごみゼロ大作戦



ごみゼロ大作戦



ごみゼロ大作戦



まるごと美術館



まるごと美術館



まるごと美術館



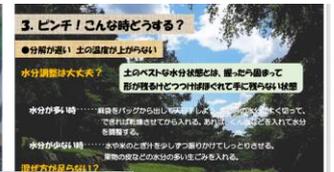
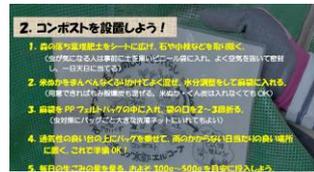
さすてな京都見学会&生ごみコンポスト講習会



●「もり・つち・たべものコンポスの手引き」作成

コンポスト講座を開催する折には「土はちぎゅうのたからもの」の冊子とセットでこのマニュアルを配布します。コンポスの取り組みを希望する他団体があれば随時対応します。

(コンポストバッグと麻袋は有料で頒布)



成果（予定）—コンポストを日々の生活の中に取り入れることで資源の循環や廃棄に責任を持つ行動に取り組んでもらえるような働きかけを行う

- 監修者 中尾先生ご関係の「**土壤肥料学会の土壤教育委員会のホームページ**」で紹介
京都府立大学生命環境科学研究科学部<土壌学>准教授 中尾淳先生には、冊子作製の過程で、土壌の歴史を表現する際にご助言をいただきました。子ども向けに土のお話を伝える上でよい資料になったとお言葉をいただいています。先生の植物園等での子ども向け授業の時に利用を検討いただいています。
- 宝ヶ池子どもの楽園「**自然遊び教室**」での活用
宝ヶ池子どもの楽園 野田奏絵さんには特にコラムの内容精査にご助言をいただきました。宝ヶ池での「土のいきもの教室」などに利用していただくことを検討しています。
- 「**八瀬自然保育どろんこ園**」さん（3月初旬）での親子向け展開
- 木津川市「**やましろごはん**」さんでの展開（3月21日）
- コンポスト連続講座や他団体へのコンポスト出前授業でツールとして利用

(団体名)生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ もり部
 【代表者】 森知津子 【主な活動地域】 京都市全域
 【ウェブサイト】 <http://Kyoto.seikatsuclub.coop>
 【設立の目的】自分自身の暮らしと自然環境とのつながりに気づき、生活者として家庭からできることを実践していこうと組合員の委員会として5名で設立。自然体験活動を通して得た気づきから、環境に負荷を掛けず暮らす方を共に実践する仲間を増やしていく。
 【主な活動内容】

- もりつちたべものコンポスト連続講座（基調講演開催）
- 伏見区中嶋農園さんへの堆肥持ち込みと農業体験
- NPO 法人木野環境さんとのコラボ企画への参加
- 白河総合支援学校さんへの堆肥持ち込みと生徒さんとの交流、左京地区への広がりお意識した農業体験活動
- 桃山工コ推進委員会さんとのコンポストを通じた交流
- 京の杜さんとの落ち葉堆肥受け取り活動